

市民公開講座



『地域で考えるケアと治療 —歩行障害と共に歩む 診断と治療—』

平成23年4月23日、東棟7階の講義室にて歩行障害をテーマにした市民公開講座が開催されました。当日は雨天にもかかわらず153名市民の方にお越しいただき、講義と質疑応答が大変長時間に渡りましたが、熱心にご聴講いただきました。

歩行障害については昨年の市民公開講座にも取り上げましたが、今年は、神経内科や脳神経外科、整形外科の関連疾患・傷病の概説とそれらの幅広い症状、また治療法や対処方法、サポート体制についてさらに具体的にご案内させていただきました。冒頭では、神経内科榎原隆次准教授より脳卒中及び神経難病について、脳神経外科長尾建樹准教授より当院で治療実績のある正常圧水頭症の外科的治療、パーキンソン病への脳深部刺激療法等について説明しました。又、整形外科の青木保親講師より坐骨神経痛や間欠性跛行の症状とその原因のひとつとなる腰部脊柱管狭窄症に関する診断・治療、神経内科の岸雅彦講師より糖尿病の末梢神経障害の診断・治療についてなど、歩行障害を及ぼす広範囲の疾患や病態に関し説明しました。昨年同様、神経内科、脳神経外科、整形外科、薬剤師、理学療法士、看護師、ソーシャルワーカーからそれぞれの専門的な見解を紹介し、患者さん、スタッフとも相互に理解を深める機会を持てました。

■市民公開講座スケジュール■

今後とも、当院では市民公開講座にて皆様にお役に立つ医療情報を積極的に提供いたします。

- 5/28(土) <「前立腺」の病気を知ろう！>(泌尿器科)
- 6/25(土) <禁煙・たばこの害>(呼吸器内科・循環器センター)
- 7/30(土) <「しげれ・ふるえ」と共に歩む‘診断と治療’>(神経内科ほか)
- 9/24(土) <糖尿病>糖尿病の予防と治療・フトケア・糖尿病性足潰瘍の保存療法と手術(糖尿病内分泌代謝センター・看護部・形成外科)
- 10/22(土) <動脈硬化>画像診断・虚血性心疾患の治療(循環器センター・糖内代センター)
- 11/26(土) <もの忘れ(認知症)と共に歩む‘診断と治療’>(神経内科ほか)
- 12/24(土) <知っておきたい加齢に伴う眼の病気>老人性黄斑変性症・白内障・緑内障(眼科)
- 1/28(土) <めまいを起こさないためには>(耳鼻咽喉科)
- 2/25(土) <肺がん治療>外科的治療・内科的治療と緩和ケア(呼吸器内科・外科)
- 3/24(土) <帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛>(皮膚科・麻酔科)

『緊急市民公開講座開催！ —東日本大震災を受けた佐倉地区の総括—』

東日本に未曾有の大災害をもたらし当地区でも震度5強の震度を経験した3月11日の東日本大震災では、その甚大な被害に誰もが大きく心を痛めながらも、われわれ日本国民が今復興に全力をあげているところです。関連して、当院では、去る4月30日に「東日本大震災をうけた佐倉地区の総括」と題した緊急市民公開講座を開催しました。

大震災後は、当院においても脳卒中の救急搬送患者数が例年の同時期に比べて大きく増加する事態が生じ、循環器センターではこの事態に対する特別対策チームを組織しました。

特別対策チームでは、震災ストレス下において何らかの心血管病リスクが迫っていると予測し、外来を中心に血管機能検査、血液検査、血圧にてリスクの高い方を早期発見し健康面の注意喚起を促し、必要に応じ降圧剤による管理の一時的強化の方針をとりました。

今回の緊急講座では、東丸貴信教授(臨床生理機能検査学)を座長に、循環器センター清水一寛先生が「震災ストレスによる血管の硬化」、同センター飯塚卓夫先生が「震災ストレス下における循環器疾患」の各講演を行い、震災を契機に生じた事象の報告分析を行いました。また、大切なのは、震災ストレス下にあってもわれわれ市民が自ら家族の健康を守る為にはどのようなところに注意すべきであるのかをきちんと理解しておくことであり、これについて循環器センター野池博文教授から「地域でもある市民の健康」と題して市民に呼びかけを行いました。

当緊急講座は、急遽の企画にて広報活動が短かったのにもかかわらず、88名の市民の方々が熱心にご聴講ください、大震災下における健康に対する関心の高さが伺われます。

東邦大学医療センター佐倉病院広報誌
～地域医療の発展を目指して～(年3回発行)

東邦大学佐倉病院

東邦大 佐倉だより

東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局

〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL | 043-462-8811(代) FAX | 043-462-8820(代)
URL | <http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

自然・生命・人間

東邦大学 学祖 須田 晋・著「自然 生命 人間」より



基本理念

医療の目的
質の高い医療を安全に提供する病院
病診(病)連携
地域に貢献する病院
教職員のあり方
人間愛を共有する病院
職場環境
楽しく明るくチャレンジする病院
生涯教育
良き医療人を育成する病院

質の高い公正な医療が受けられます
個人の尊厳が守られます
個人のプライバシーが保障されます
必要な医療情報の説明が受けられます
セカンドオピニオンが保障されています
医療行為について自己選択ができます

第13号
(2011.5.1)

副院長就任のご挨拶



診療担当副院長

鈴木 康夫

Topix News

副院長就任のご挨拶 副院長 鈴木 康夫

院長補佐就任のご挨拶
■院長補佐 泌尿器科 鈴木 啓悦
■院長補佐 形成外科 林 明照

医療連携だより 低侵襲治療シリーズ「胸部外科」
■外科 長島 誠

市民公開講座 ■『地域で考えるケアと治療－歩行障害と共に歩む 診断と治療－』 ■『緊急市民公開講座開催－東日本大震災を受けた佐倉地区の総括－』

東日本大震災で被災された皆様方に心からお見舞いを申し上げます。

東日本大震災は、大地震とそれに続く想像を絶する津波により未曾有の大災害となりました。関西大地震に際して驚異的復興を成し遂げた日本、震災の規模は関西大震災を大きく超える巨大災害ではありますが、歴史上数々の有事を克服してきた日本人の誇りにかけ必ずや復興を成し遂げ新しい東北を再生してくれる信じております。しかしながら、再生の道を大きく妨げ日本ばかりか世界中の人々に大きな不安を抱かせているのが、広範囲に高濃度な放射線汚染をもたらし大規模な電力不足を招いた原子力発電所事故です。偶然ヨーロッパ留学中に遭遇したチェルノブイリ原発事故の悪夢が思い出され、豊かさを大きく支えてくれる筈の文明の利器が大きな脅威になることの恐ろしさを改めて知らされました。

被災地に存在した多くの病院が壊滅的破壊を受けただけでなく、原発事故に伴い実施される計画停電による病院業務の縮小化、工場倒壊に伴う医薬品の不足など今回の震災は過去に類を見ない大規模な医療危機も招いています。我々医療人は危機に直面した時の医療のあり方をいかにしらいいのかも問われています。我々佐倉病院は、いつ何時でも良質で安全な医療を患者の皆様方に提供することを基本理念としています。大震災当日は我々佐倉病院も一

時は水道・電気・ガスが停止し状態になり、良質・安全な医療の提供が大きく損なわれる危機に直面しました。しかし、佐倉病院の全職員は一致団結し、困難な事態を乗り越え病院運営の正常化を維持し続けることに成功いたしました。佐倉病院は今までのところ計画停電の実施が見送られ病院機能に支障がなく運営されておりますが、夏場には電力不足のピークを迎える病院運営に支障を生じることも覚悟しなければなりません。しかし、今回の大震災時に示した全職員の团结力があれば、いかなる危機的状況でも患者の皆様方に良質で安全な医療を提供し続けることは可能と考えています。

私は、臨床担当副院長業務の一つとして治験事務局責任者を勤めております。佐倉病院は地域の中核病院として広く周辺住民の健康管理に大きな責務を果たすとともに、大学病院として先進医療を推進する役割も担っております。保険適応がないために実施困難な優れた先進医療が数多くあり、それらを一刻でも早く必要とする患者さんに安全に提供できるよう推進する役割も担っています。先進医療を一般診療レベルで実施可能にする重要な過程が治験であり、当院では各診療科で多くの治験を実施しています。今後も近隣の先生方のご協力を得て、治験業務の推進を図っていきたいと考えております。何卒医師会をはじめとした近隣の先生方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

院長補佐就任のご挨拶



院長補佐／泌尿器科 鈴木 啓悦

本年1月より管理担当院長補佐ならびに医療連携・患者支援センター長に就任しました。当院は451床への増床を果たし大きく生まれ変わりました。すでに病床稼働率も90%台後半へ上昇し、これもひとえに医療連携先の先生方のおかげと、心より御礼申し上げます。さらに大学病院・急性期病院として、地域の中核病院としての機能を強化すべく努力しているところです。紹介・逆紹介の拡大・連携病院の拡充・連携パスのさらなる導入など、鋭意進行中です。医療連携に関しまして、何かご要望などございましたら、ご遠慮なくお申し付けください。

本年は開院20周年にあたり、9月3日に祝賀会がウィッシュトンホテル・ユーカリにて予定されています。周辺医療機関の皆様にも多数ご参加いただけますよう、準備を進めております。

すべての職員が一体となって、佐倉病院全体で、頑張っております。私自身もとより微力ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いします。

医療連携たより

大腿骨頸部骨折地域医療連携パス運用開始について
この度、当院では大腿骨頸部骨折の地域医療連携パスの運用開始にともない、近隣の回復期リハビリテーション病院（新八千代病院・八千代リハビリテーション病院）との連携を始めさせて頂きます。当院では既に平成21年8月より脳卒中地域医療連携パスを導入しており、今回はそれに続いての地域連携パス導入となります。大腿骨頸部骨折はご存知通り、単に骨折というだけでなく、寝たきりの状態でいるための褥瘡や拘縮、筋力低下などさまざまな問題を引き起こします。急性期～回復期～自宅・施設といった流れをスムーズに一貫して行うことで、患者さんと病院、両方のメリットとなることを目指しています。何卒皆様のご協力をお願い申し上げます。

院長補佐／形成外科 林 明照

本年1月より診療担当院長補佐ならびに診療録管理センター部長に就任しました。当院の電子カルテ運用は成熟期に入りつつありますが、フィルムレスに対応した画像情報のCD書き出しや持ち込みCDの扱いなど早急に運用規程を確立し、地域医療機関との情報交換をさらに円滑にしていきたいと存じます。また、DPC導入に伴い診療の効率化と経費節減の重要性がますます高まっており、各診療科の収支差額増加に向けた戦略とクリニックパス導入拡大による効率的な病床運用を目指します。くしくも東日本大震災で節電モードが高まっている折、ムダの削減には好ましい環境といえます。医療の質を落とすことなく、大学病院の使命である研究・教育もおろそかにせずに経費削減するには、何かしらの痛みも覚悟が必要です。地域医療の範となるよう自らの責務を努める所存です。

セカンドオピニオン外来開設のご案内

当院では平成23年4月1日よりセカンドオピニオン外来を開設し、医療連携・患者支援センターにて受付を行っております。事前予約が必要ですので、ご希望の患者さんには、当院HPをご覧頂くか下記連絡先まで直接ご連絡頂けるようにお伝え下さい。また、紹介元の先生におかれましては、紹介状・検査等資料のご準備をよろしくお願い申し上げます。

※料金は保険適用外、全額自費となります。

30分まで 10,500円 60分まで 21,000円

セカンドオピニオン外来 申込み・問い合わせ先

東邦大学医療センター佐倉病院

医療連携・患者支援センター

電話：043-462-8770(直通)／FAX：043-461-2721

受付時間 月～金 10:00～15:00

低侵襲治療シリーズ「胸部外科」

外科 准教授／長島 誠



東邦大学医療センター佐倉病院では、肺・縦隔領域の外科治療において、積極的に低侵襲な胸腔鏡下手術を行っています。対象となる疾患は原発性肺癌、転移性肺癌、自然気胸、一部の縦隔腫瘍などです。かつては胸部の肋骨に沿って約30cmもの大きな皮膚切開を行い、肋骨を切除して開胸するのが肺癌に対する標準的なアプローチでした。胸腔鏡を用いた手術は、傷が小さく、術後の痛みが少ないために、患者様の術後のQOLは良好です。当院では、胸腔鏡を挿入する1cmの傷と鉗子を挿入する2cmの傷に、5～10cmの小開胸を併用して肺癌の手術を行っています。胸腔鏡下の操作に直視下の操作を組み合わせることによって、安全に肺葉切除+縦隔リンパ節郭清術を施行することが可能です。傷が小さく術後の疼痛が少ないために、術後の呼吸機能が保たれ、肺炎などの合併症をおこすリスクが低くなります。入院期間は標準開胸手術に比べて短く術後7日前後で退院が可能です。治療成績も従来の標準開胸の手術と比較して同等か、むしろ良好な結果が得られています。

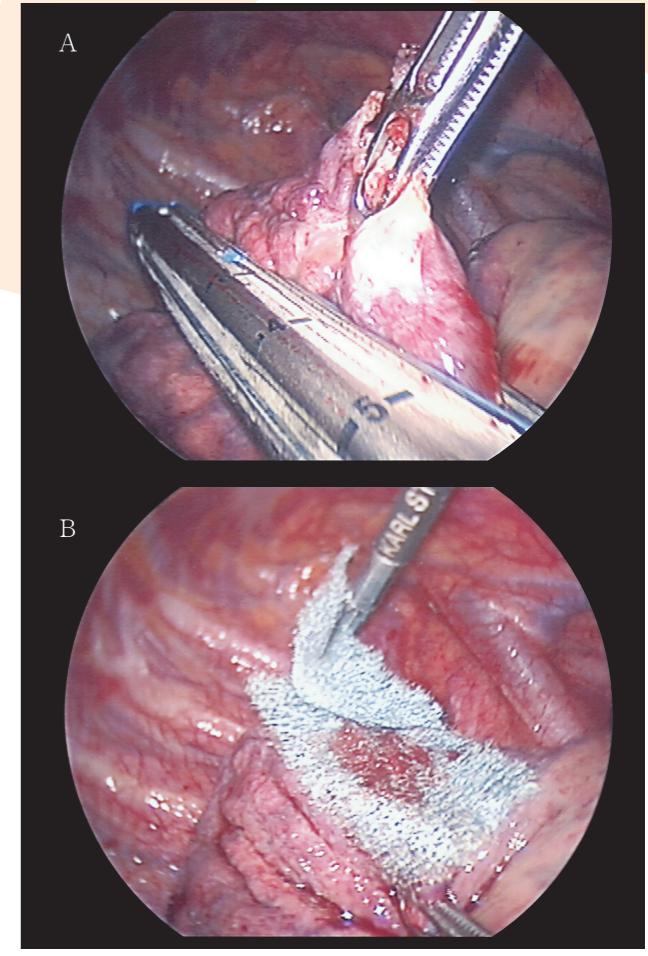
また、自然気胸や末梢の転移性肺癌に対しては、0.5cmから2cm程度の3ヶ所の傷による完全胸腔鏡下手術を行っています。軽度の気胸では治療は行なわず自宅安静のみで経過観察をしますが、中等度以上の気胸に対しては入院治療が必要となります。胸腔ドレーンを挿入し持続脱気療法を行う従来の治療法では、多量の空気が漏れている場合には治癒にくく、また再発を繰り返しやすいことが難点です。完全胸腔鏡下手術によって、気胸の原因となっているブランプやブレブを自動縫合器で切除し、吸収性組織補強材と



胸腔鏡下気胸手術

フィブリン糊製剤を用いて胸膜補強を行います。気胸に対する完全胸腔鏡下手術は、術後2～3日目には退院することができます、従来の保存的治療法に比べて治療期間が短く、再発率も少ないのが特徴です。術後、手術の傷は、ほとんど目立たなくなります。最近、補強材が装着された自動縫合器が開発され、気腫性変化の強い肺組織の切除も、より安全に効率的に行えるようになりました。

毎週水曜日の早朝7時半より、呼吸器内科、病理部、外科の各科医師、研修医、医学部学生が参加して呼吸器カンファレンスを行っています。肺癌や良性疾患など、さまざまな呼吸器・縦隔領域疾患の診断・治療法について活発なディスカッションを行っています。遺伝子診断や臨床研究にも積極的に取り組んでいます。今後も、より根治性の高い身体に優しい胸部外科手術の実践に向けて努力を継続してまいります。どのような症例に対しても、呼吸器内科と外科で連携をとりながら対応いたしますので、引き続き患者さんの紹介をよろしくお願いいたします。



A 自動縫合器による肺組織の切除

B 吸収性組織補強材とフィブリン糊製剤を用いた胸膜補強